



原っ子つうしん

目には見えないけれど大切なもの「命」「思いやり」「一生懸命」

令和6年

11月5日(火)

印西市立原小学校

校長室便り

〈第7号〉

<学校教育目標>

人間性豊かな、考え行動できる心身ともにたくましい子どもの育成

～自らの可能性に挑戦する活力ある原っ子～

さわやかハートフルコンサート

10月25日(金)ハートフルコンサートが開催され、5年生と音楽部が参加しました。5年生は、クラス毎の合唱を発表し、ホール中に美しいハーモニーが広がりました。音楽部の発表は、力強い演奏で迫力があり、勇ましさ、悠々たる大空、広大な大地を感じさせる見事な演奏でした。原っ子音楽集会での発表より、さらに素晴らしい演奏を聴かせてくれました。5年生も、音楽部も、本当によく頑張りました。



<食べ物と人、そして料理と思いやり>

以下は、先週の全校集会で、私が児童に伝えた話の一部です。

「あの食べ物は、あの人は、苦手だな。」「その食べ物は一度も食べたこともないし、その人とは一回も話したこともないからなあ。」とあって、まったくそれを食べなければ、その人と話さなければ、ずっとその食べ物を味わうこともなく、その人を知ることもないでしょう。もし、一口だけ食べてみたら、少しだけ話してみたら、思いもよらず美味しかったり、楽しい人だったりするかもしれません。

この話は、私が思っただけで、本当にそうなのかはわかりません。しかし、私はこれまでたくさんの人と出会ってきて、「そうなのかな。」と勝手に思ってきたので、皆さんに話しました。

また、食べ物と言えば、「料理と思いやり」も似ていると思います。自分が食べたいものを自分で作ることは別として、皆さんのお家の人のほとんどは、あなた方のために、料理をしてくれていると思います。「今日はとても頑張ったから、一番好きなものを作ってあげよう。」「今日は疲れているようだから、力がつくようなものを作ろう。」「体の調子がよくないから、温かい食べ物を作って、いつもより少し野菜を多くして、果物も食べてもらおう。」など、食べる人を思い浮かべながら料理をしていると思います。そして、「今、何を作ってあげれば、その人が明るく元気で幸せを感じられるのか。」を考える料理というものは、思いやりそのものだと思います。つまり、単に食べ物だけでなく、作ってくれた人の思いやりの心もいただいているということです。ですから、感謝の気持ちを持ち、できるだけ残さずいただくことが大切だと思います。しかし、食べ物のアレルギーや病気などで食べることができないのは仕方ありません。

今日は二つのことを、皆さんに伝えました。一つ目は、苦手な食べ物でも、苦手な人でも、ちょっと食べてみて、少しお話してみたいということです。二つ目は、思いやりの心をもって料理をしてくれた人に感謝し、残さず食べてほしいということです。

《お願い》 本校教職員の勤務時間は、8時00分から16時30分となっております。大変恐縮ですが、働き方改革の観点から、今後緊急な場合を除き、勤務時間以降の電話連絡や来校等は、できるだけ控えていただきますよう、ご理解・ご協力をお願いいたします。